

## 算数科学習指導案

平成20年10月23日（木） 4校時

4名

指導者 ○○ ○○ 支援員 ○○ ○○

1 単元名 買い物をしよう（金銭実務）

2 単元について

金銭実務は、お金の価値が分かり、お金を大切にし、計画的にお金を使って上手に買い物をする能力を養うことを目的としている。この能力は生活の中で必要性の高い能力で、特に、買い物は、お金を媒介として自分のほしい物を得るということだけでなく、店というものを通して社会生活との関係を持つという点で避けては通れない行為である。しかし、お金を扱った経験がほとんどない児童にとっては、お金の種類も多いため、それぞれの価値や等価関係を理解することが難しいと予想される。そこで、実物を見せながらお金の種類の違いと読み方・数え方を十分に指導し、その後、実際の買い物のイメージを持たせるために買い物のシミュレーションをしながら、上手な買い物の仕方を身に付けさせていく。

本単元の導入段階として、生活単元学習で作った野菜を本校職員に売るという活動を通して、お金の馴染ませ、自分たちが働いて得たお金という意識を多少なりとも持たせると同時に、「お金は大切なものであり、粗末に扱ってはいけない」というお金の有用性や役割を教えたい。実際の買い物は、A児（○年 ）とB児（○年 ）は 200円以内の物を1品、C児（○年 ）は2品で 500円程度の物、D児（○年 ）は2種類以上で 1000円程度の買い物になるが、それまでの指導に当たっては、レディネステストの結果から、A児とB児、C児、D児の3グループに分けて、A児とB児には、一円、五円、十円、五十円、百円の5種類の硬貨を使った数え方、C児には 500円までの全ての硬貨と千円札を使った数え方、D児にはさらに5千円札、1万円札を加えたときの数え方を習得させたい。児童には、この学習は、大好きなカレーライスを自分たちで作るために必要な学習であること、今後の自分の生活を楽しく豊かなものにするための学習であることを話し、学習意欲を持続させたい。

児童の実態は、

※ 略

## ○本単元のレディネステストの結果

レディネステストの内容	A児	B児	C児	D児
2桁の数を読むことができる				
3桁の数を読むことができる				
10ずつ増える数を100まで唱えることができる				
お金（硬貨）の種類が分かる				

(◎ほぼできる ○たいたいできる △ほとんどできない)

本時は、違う種類の硬貨や紙幣を交換するための必要条件を明らかにしてから、前時の学習を基にしながら両替という操作活動を通して、違う貨幣相互の等価関係を理解させていきたい。A児とB児には、1種対1種の両替、C児とD児には、1種対2種の両替の仕方を習得させたい。等価関係の理解は、貨幣そのものの価値を正しく理解する上でとても重要であるので、繰り返しの練習によってしっかりと理解させたい。

## 算数科学習指導案2

### 3 単元の目標

○お金の価値や有用性が分かり、計画的にお金を使って上手に買い物をしたり、自分でお金を管理したりする能力を養う。

【関心・意欲・態度】・お金の種類や数え方に関心を持ち、進んでお金の学習をしようとする。

【数学的な考え方】・それぞれの硬貨や紙幣の価値を基に、お金の数え方を考える。

【表現・処理】・数種類の硬貨や紙幣の混ざった金額を数えることができる。

【知識・理解】・お金の種類を理解する。

・お金の数え方を理解する。

### 4 指導計画（10時間扱い）

時 数	学 習 内 容		
	A児・B児	C児	D児
1	硬貨の種類を覚える。	硬貨と紙幣の種類を覚える。	全部の硬貨の混ざった金額を数えたり3枚の紙幣の混ざった金額を数えたりする。
2	同種類の硬貨（一円、五円、十円、五十円、百円）の金額を数える。	同種類の硬貨（全硬貨）と千円札の金額を数える。	全部の硬貨と紙幣が混ざった金額を数える。
3	一円・五円・十円硬貨相互の1種対1種の両替をする。	一円・五円・十円硬貨相互、十円・五十円・百円硬貨相互の1種対1種、1種対2種の両替をする。	一円・五円・十円硬貨相互、十円・五十円・百円硬貨相互の1種対1種、1種対2種の両替をする。
4 本時	十円・五十円・百円硬貨相互の1種対1種の両替をする。	百円・五百円硬貨・千円札を相互に1種対1種、1種対2種の両替をする。	百円・五百円硬貨・千円札、千・五千・一万円札をそれぞれ相互に1種対1種、1種対2種の両替をする。
5	一円、十円の硬貨の混ざった金額を数えたり出したりする。	一円、五円、十円、五十円の硬貨の混ざった金額を数えたり出したりする。	全部の硬貨を使って、ちょうどの金額を出す。
6	一円、五円、十円の硬貨の混ざった金額を数えたり出したりする。	一円、五円、十円、五十円の百円、五百円の硬貨の混ざった金額を数えたり出したりする。	全部の硬貨と全部の紙幣を使って、ちょうどの金額を出す。
7	一円、五円、十円、五十円の硬貨の混ざった金額を数えたり出したりする。	一円、五円、十円、五十円、百円、五百円の硬貨と千円札の混ざった金額を数えたり出したりする。	計算や電卓を使って2品以上の代金の合計を出す練習をする。
8	一円、五円、十円、五十円、百円の混ざった金額を数えたり出したりする。	お釣りをもらうお金の出し方の練習をする。	お釣りをもらうお金の出し方の練習をする。
9	200円までのちょうどの金額を支払う練習をする。	1000円以内のちょうどの金額を支払ったり、店員になってお釣りを返したりする練習をする。	2品以上で1000円を超える場合の代金を計算して支払ったり、店員になってお釣りを返したりする練習をする。
10	買い物の計画を立てる。	買い物の計画を立てる。	買い物の計画を立てる。
11	実際の買い物をする。	実際の買い物をする。	実際の買い物をする。

算数科学習指導案 3

5 本時の指導

(1) 共通の目標 ・硬貨や紙幣の相互の等価関係を理解する。(知識・理解)

個人の目標

A児・B児	一円、五円、十円、五十円、百円の硬貨の相互の等価関係を理解する。
C児	全部の硬貨と千円札の相互の等価関係を理解する。
D児	全部の硬貨と紙幣の相互の等価関係を理解する。

(2) 研究との関わり

①研究内容 3	新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、課題を解決しようとしたりするための確かめの場の設定を中心に取入れた算数的活動の授業実践	
②本時における算数的活動について		
ア) 算数的活動	体験的な算数的活動(各自が実際に行ったり確かめたりする活動)	
イ) 目的	貨幣相互の等価関係を理解させる。	
ウ) 場の設定	両替屋さんごっこ	
エ) どのような力が身に付くことを期待するか	貨幣の価値が分かり、貨幣相互の等価関係を理解する力	
③仮説との関わり		
要素 3	新たな性質や考え方を見いだそうとしたり、課題を解決しようとしたりするための確かめの場の設定	貨幣を両替するという活動を通して、貨幣相互の等価関係を理解させる。

(3) 展 開

過程	指導段階と発問・指示(○)	学習活動と個への支援(●)・留意点(※)		
		A児・B児	C児	D児
導入	<b>1 前時の想起</b> ○前の時間の学習を振り返ろう。	(1) 前時に学習したプリントや具体物により前時の学習内容を確認をする ●前時に学習した問題と同じものを扱い、繰り返すことにより、学習活動の安定と内容理解を図る。 ※前時を想起させながら、前時の学習内容の定着度を評価し、定着していない場合は回復指導をし自信を持たせる。		
	<b>2 課題設定</b> ○前の時間に扱ったお金と違うお金同士で両替を試みよう。	(2) 本時の学習内容を知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         お金のりょうがえをしよう。                     </div> ※本時に扱うお金を種類をグループ毎に提示し、学習内容を明確にする。		
6分				
展開	<b>3 見通し</b> ○お金を両替してもよいのはどんな場合だろう。	(3) お金を両替してもよいのはどんな場合かを考える。 十円玉4個と五十円玉1個   百円玉4個と五百円玉1個と両替できるか判断する。   する。 ●両替ができない理由を一人一人に言わせ、明らかにさせる。 ※同じ大きさの金額でないと両替をしてはいけないこと、同じ大きさの金額であれば両替してもよいことを確認する。		

32分	<p><b>4 課題解決</b> ○両替の練習をしよう。</p> <p><b>5 練習</b> ○両替屋さんごっこをしよう。</p>	<p>(4) それぞれの目標に応じた両替の練習をする。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                 十円、五十円、百円の硬貨を使った1種対1種の両替                  ●指導者が助言しながら作業させる。             </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                 百円、五百円硬貨と千円札を使った1種対1種、1種対2種の両替。                  ●なるべく自力で取り組ませる。             </td> <td style="width: 33%; padding: 5px;">                 百円、五百円、千円札の3種、千円札、五千円札、一万円札の3種を使った1種対1種、1種対2種の両替。                  ●なるべく自力で取り組ませ、答えも自分で確かめさせる。             </td> </tr> </table> <p>※簡単な両替から始め、少しでもできたら褒めながら進め、学習意欲を持続させるようにする。</p> <p>●つまづいている児童には、第2時で使った学習シートを使って、個別指導をする。</p> <p>(5) 両替の練習を基に「両替屋さんごっこ」をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">                 要素3の実践 貨幣を両替するという活動を通して、貨幣相互の等価関係を理解させる。             </div> <p>①2年生のA児とB児が両替屋さんで、C児とD児がお客さん。                  ②児童4人が両替屋さんで、参観の先生方がお客さん。</p> <p>※お客の役の人には、「これを○円玉に両替してください。」と、『大→小の両替』と『小→大の両替』の両方の場合を両替屋の児童に示してもらおう。                  C児とD児に対しては「○円玉(札)を□と△で両替してください。」も加える。</p> <p>●お客さんの話をよく聞いて、ゆっくりでもよいので、よく考えてお金を出すように話す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;">                 知 貨幣の等価関係が分かり、正しく両替することができる。(観察)             </div>	十円、五十円、百円の硬貨を使った1種対1種の両替 ●指導者が助言しながら作業させる。	百円、五百円硬貨と千円札を使った1種対1種、1種対2種の両替。 ●なるべく自力で取り組ませる。	百円、五百円、千円札の3種、千円札、五千円札、一万円札の3種を使った1種対1種、1種対2種の両替。 ●なるべく自力で取り組ませ、答えも自分で確かめさせる。
十円、五十円、百円の硬貨を使った1種対1種の両替 ●指導者が助言しながら作業させる。	百円、五百円硬貨と千円札を使った1種対1種、1種対2種の両替。 ●なるべく自力で取り組ませる。	百円、五百円、千円札の3種、千円札、五千円札、一万円札の3種を使った1種対1種、1種対2種の両替。 ●なるべく自力で取り組ませ、答えも自分で確かめさせる。			
7分	<p><b>6 まとめ</b> ○今日の学習で分かったことを発表しよう。</p> <p><b>7 次時予告</b></p>	<p>(6) 本時の学習で分かったことを発表する。</p> <p>※全員が一斉に本時に学習した両替の問題を解いた後、一人一人が、「○円玉(札)と□円玉(札)△個(枚)と両替できます。」という形で発表できるように支援する。また、一人一人の発表を聞き、頑張ったところをお互いに認め合い称賛し合うようにし、次時への意欲付けにする。</p> <p>(7) 次時はいろいろなお金を数える学習であることを伝える。</p>			